

# 自分の考えを表現する児童を育成するための工夫

～ 算数の授業における 板書の工夫・ペア交流の在り方～

脇之島小学校 小嶋 里香 (授業者) 山田 ひろみ

## 1 授業改善の視点

「小学校 授業振り返り表」

- ・ 構造的な板書
- ・ 全員が話す場の設定
- ・ ねらいに迫る言語活動の充実

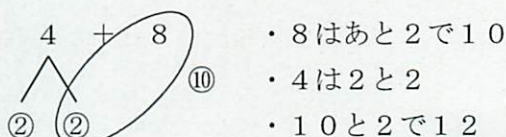
## 2 具体的な実践

1年生 「たしざん」

### (1) 板書の工夫

上記の単元の3/8時間目では、「10より大きくなるたしざんのしかたをせつめいしよう。」という課題で行った。個人追究後、全体交流を行い、児童が考えたブロック操作の図、さくらんぼ図を板書に位置付けた。そして、それらの図とつなげ、「8はあと2で10。4は2と2。10と2で12。」という説明(話形)を全体交流の後半で指導した。説明の仕方をパターン化することで、特に低学年の児童は、どんな言い方をすればよいか分かり、安心して説明することができると考えたからである。

この板書を見ながら、児童は4+8の計算の説明練習をし、習熟するようにした。



【板書に位置付けた「さくらんぼ図」と「話形」】

### (2) ペア交流の位置付け

全体交流後には、3+8たしかめ問題で、ペア交流を位置付けた。

特に低学年では、繰り返し練習することが大切であると考えてるので、全体交流後半で押さえた4

+8の計算の仕方とよく似た、3+8の計算の仕方を話形に沿って説明させるようにした。また、どの児童にも説明する力を付けさせるため、ペア交流にし、全員が話す場を設けた。

説明ができたら、自分でシールを貼り、ペアに話すことができたら、ペアからシールを貼ってもらった。シールという目に見える形の評価を行うことで、次時への意欲につなげた。



【全体交流後のたしかめ問題でペア交流する様子】

## 3 実践を振り返って考えられること

1年生という段階では、どのように説明すればよいか分からない児童も多くいるので、話形を示すことで、児童は安心して話すことができた。

児童が考えたブロック操作の図やさくらんぼ図とつなげて、話形を板書に位置付けることで、さらに児童の思考は整理さると考える。

説明の練習を全員で行い、その後、似たような問題(たしかめ問題)に取り組むことで、説明の仕方を身に付けることができた。また、全体交流で説明の仕方が示された後のペア交流であったので、自信をもって話す姿があった。